View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Wakayama University Academic Repository

小学校教員養成における図画工作科から家庭科へつながる学びの提案
―― 布に着目して ――

Study Proposal on Educational Contents Between Arts & Handicrafts and Home Economics Education in Elementary School Teacher Training Course

今　村　律　子
Ritsuko IMAMURA
（和歌山大学教育学部家政教育領域）

寺　川　剛　央
Takao TERAKAWA
（和歌山大学教育学部美術教育領域）

赤　松　純　子
Junko AKAMATSU
（和歌山大学教育学部家政教育領域）

2016年10月７日受理

Abstract

In this study, we analyzed the present school textbooks on art & handicrafts using at Wakayama prefecture in order to propose the educational contents for the cooperation between arts & handicrafts and home economics education. As a result, a theme, fabrics, has been used to make creative works in the art & handicrafts textbooks. Through children's activities, they can feel the fabrics properties by touching, twisting, wrapping, and so on in younger grades. At home economics education pupils study why clothing are not made of papers but of fabrics from scientific reasons in senior grades. In this point we suggest that the fabrics should be one of the good cooperative examples between the 2 school subjects. However, teachers need more knowledge about fabrics for positive using as a educational theme.

１．はじめに

小学校家庭科の生活に役立つ物の製作において、学習指導要領解説[1]では、作る楽しさの実感や、製作する物を考え、形や大きさなどを工夫することが記載されている。その中で、「形などを工夫し」については、おおよその形や大きさなどを決めるために、例えば紙などを使って考えたり、計ったりして具体的に試行して工夫すると解説されている。このことは、図画工作科において紙を使って活動することや空き箱や段ボールを利用して創作することと大きく関連している。しかし、一方では家庭科では紙などの他の材料と「布」との扱いの違いや特性を知る[1]ことも学習指導要領解説に記載されており、小学校における「布」の学習は図画工作科と相容れない点もあると考える。

教科の成立過程では、小学校家庭科と図画工作科は、一教科として内容的整合性を持たせようとした関係の深い歴史的経緯がある。朴木[2]は、第二次世界大戦後の家庭科成立を巡る論考の中で、小学校家庭科と図画工作科との統合問題があったとし、当時の議事録をもとにその経緯を詳細に報告している。まず、米国のファインアートを『図画工作』、プラクティカルアートを『家庭』と訳すこと、当時の「家事科」と「裁縫科」を統合して「家政」科とすること、小学校５・６学年用のコース オブ スタディはhome economicsとして作ることが合意された。日本側では家庭科と図画工作科を別教科としてコース オブ スタディを作成していたが、アメリカ側CIE教育課からの提案で、女生徒が家政home economicsのために余分な時間を費やすことあるいは工作handicraftsの授業に参加できないという要因を除くために、男女とも学ぶ家庭実技practical art for the homeのようなものにするため両科の統合の可能性を議論することとなった。しかし、目的と内容の英訳検討の段階で両者の統合は大変に困難と報告され、現時点では断念し次善の策として「家政」科home economicsに２,３の新しい単元を加え、それをpractical artsと呼び、男女に学ばせることとなった。つまり、「家政」科は、home economicsからpractical artsへの性格変更を目指すこととなった。

髙橋・村上は、2010年に家庭科と美術科[3]、2013年には家庭科と図画工作科[4]について学校教員養成課程における教科連携を研究に位置づけ、毎年研究報告を行っている。彼らの第４報（no.4）[4]では、両教科におい

て「布」がどのように扱われているかについて学習指導要領・解説及び教科書が分析され、教科連携のための教科間の比較が行われている。しかし、「布」に着目された理由は、両教科において共通する材料・素材であるから、としか言及されていない。

そこで、本研究では、まず小学校家庭科において「布」を学習する意味と意義を明確にしたい。次に、家庭科は、高学年のみの教科である。小学生の時期は発達が未分化であることや、担任教諭が全教科を教えることから、教科横断的な理解や学年縦断的な技術や知識の獲得という点も踏まえて、図画工作科から高学年の家庭科への学びという観点から教科連携について検討し、２教科における学習内容の連携について整理した。髙橋ら[5]も教科の連携は、少ない授業時間数を活用し、児童生徒の学習活動を補完するというメリットがあると指摘している。

Ⅱ．小学校家庭科における「布」

１．衣生活学習における位置づけと扱い方

⑴学習指導要領及び学習指導要領解説[1]の記述

小学校家庭科学習指導要領では「布」は、C快適な衣服と住まいにおける⑶生活に役立つ物の製作についての指導として、「ア布を用いて製作するものを考え」るという位置づけで取り上げられている。ここでは、身の回りの生活に役立つ「布」を用いたものに関心をもつこと、家庭生活の中でどのように「布」が活用されているかを見直すこと、「布」を用いてなにを製作するかに関心を持って考えることにより、製作に関する基礎的・基本的な知識や技能を身に付けることがねらいとされている。また、役立つ物の製作の指導に当たっては、適した「布」の種類などを調べること、材料の「布」は、しるしが付けやすい、縫いやすいなど、児童が扱いやすい性質のもの、洗濯に対して丈夫な「布」にするなどの表現で布について記載されている。さらに、紙などの他の材料と「布」との扱いの違いや特性を知り、「布」の使い方を考えることも配慮事項として挙げられている。「イ手縫いや、ミシンにより目的に応じた縫い方を考えて製作、活用する」では、日常生活で活用することを通して「布」製品を評価する力を高めることが求められている。さらに、D⑵「環境に配慮した生活の工夫」の学習と関連を図るため、例えば、家庭にある「布」や不要な衣服の一部分を活用するなどの工夫についても記載されている。

このような学習指導要領及び解説に記載されている内容をもとに、小学校家庭科教科書における「布」に関する学習内容を２点に整理した。

⑵小学校家庭科教科書[6),7)]の記述

①布の種類

KR社では、「計画を立てて、つくってみよう」の小単元（p.38）の「布について調べてみよう」で「布」は織ったり、編んだりして作ったものであることを説明し、織った布、編んだ布、フェルトという３種類の「布」が取り上げられている。TK社では、「工夫して作ろう」の小単元（p.84）の「布を選ぼう」のなかで、「いろいろな布」として、織物、編物、フェルトが取り上げられており、本文では「布」の種類や性質について調べることが記載されている。TK社教科書では、キルトも提示されていた時期もあったが、現行教科書では両者で取り上げられている布の種類は同じであった。

②布の特徴と性質

KR社では①と同じ小単元で、肌ざわりや丈夫さ・しなやかさなどの特徴が異なる、いろいろな「布」があることが本文に記載されている。布の種類を説明する写真では、たての布目、よこの布目、みみの表記があった。また、「調べよう」にいろいろな方向に引っ張る、折り目をつける、布を切るという体験を通して、「布」の特徴を知るように促されている。アイロンの安全な使い方では、たての布目、布目にそってかけること、斜め方向のアイロンがけが「×」であることがさし絵を用いて表示されていた。ひと口メモという教科書枠外には、布の幅の両端を「みみ」といい、ほつれにくいという具体的な説明が記載されていた。

一方、TK社では、①と同じ小単元に、織物ののび方だけが記載されていたが、たて・よこ・ななめ方向と具体的にそれぞれの方向を明示して引っ張るように記載されていた。のび方以外の記載は、別の小単元「布で作られた物のよさを見つけよう」（p.52）で、「布」はしなやかに物の形や動きに沿ったり、くり返し洗ったりできる素材であること、さまざまな色や柄や特徴があることが本文に取り上げられている。また、児童の活動として、さわったり使ったりするとどんな感じがするか、が挙げられ、タオル様のイラストとともに気づきの例として「ふわっとしてあたたかい」という表現が見られた。さらに、別の小単元「ウォールポケット」（p.58）の製作手順内に、織物の組織の説明がみられ、ここではたて・よこの布目のこと、布のみみがほつれないという知識も掲載されていた。

布を用いた製作以外の単元では、KR社の「あたたかい着方をくふうしよう」の小単元（p.58）において、「布」の厚さによる暖かさの違いを比べるため、うすい「布」と厚い「布」が「調べよう」に取り上げられている。また、衣服の働きの小単元（p.59）では、運動時に伸び縮みする「布」が動きやすいことが本文に記載され、さし絵では体育着の「布」と給食着の「布」を引っ張り、「布」の伸びやすさの違いを比べるという活動が掲載されていた。「涼しい着方を工夫しよう」の小単元（p.82）では、「布」による空気の通しやすさとして目が粗い「布」と目が細かい「布」が取り上げられていた。TK社の教科書では、「快適な着方を考えよう」の小単元（p.76）において、「布」の性質を比べる方法と

して、さわりごこち、水の吸いやすさ、乾きやすさ、湿気の通しやすさ、風の通しやすさ、伸びやすさが取り上げられていた。特に、「布」を触って感じ方を比べる記載では、ふわふわ、さらさら、もこもこ、ごわごわなどの具体的な感覚例が掲載されていた。

2．衣生活学習において「布」を知る意味

学習指導要領・解説及び教科書に記載されている布の種類や性質という内容は、主として生活に役立つものの製作で扱われていることはすでに髙橋・村上[4]が指摘しているとおりである。小学校家庭科において、「布」を知ることは、袋物などの布製品や衣服が「布」を縫製することによって製作されていることの理解につながる。この内容は、小学校から中学校家庭科への系統的な学習からとらえると、「布」の前段階は、糸であり、その前は繊維であるということ、すなわち「繊維→糸→布→衣服」という衣服の成り立ち学習の一部と考えられる。繊維については、小学校ではなく中学校で学習する内容[8]とされているので、小学校では「布→衣服」を取り上げていることを意味する。ただし、小学校家庭科教科書においても、洗濯時に布地の表示を確認することとして教科書では具体的な繊維名称が挙げられたり(KR社p.84)、製作時に用いるアイロンの温度調節目盛りのダイヤル挿絵に繊維名が記載されている(KR社p.39、TK社p.120)。しかし、教科書の表記は、いずれも「布」の種類によって、熱に対する強さが違う(KR社)、温度を調節する(TK社)というように、小学校では繊維という名称ではなく、「布」という表現が用いられている。私たちの身の回りに存在する繊維製品の衣服は、小学校家庭科においてはいろいろな素材の「布」で作られた衣服という意味である。袋物や帽子など身の回りのさまざまな繊維製品を、小学校では「布」製品と言い換えている。以上のように、小学校家庭科では、「布」を知ることが基本となることが明らかである。

筆者らは上述のように、小学校において「布」を学習することの重要性に基づき、被服製作以外の着方や手入れという衣生活内容においても「布」の学習を取り入れながら進めていく授業提案を行ってきた[9~11]。すなわち、「布」の種類として教科書で取り上げられている織物や編物という「布」の構造と空気に着目するという提案である。具体的には、①布の織り目や編み目には空気が存在すること、②空気の多少が着方学習で取り上げられる布の性質(保温性・通気性・吸水性)と関連すること、③動かない空気は熱を保持し、動くものは熱を放散する性質をもつことが気温や季節に応じた着方に関連すること、④衣服を着用することによって、織り目や編み目の空気が汚れに置換するため、着方学習で取り上げた布の性質(②)が低下し着心地が悪くなること、⑤織り目・編み目に付着した汚れを空気に再び置換することが洗濯という手入れであること、という一連の授業の流れである。衣服材料が「布」であることを基本にすることによって、小学校において生活に役立つ物の製作だけでなく、衣生活学習全般が一貫した内容として扱われることが可能となる。このことが、衣生活のそれぞれの内容を児童が学習する際、布の構造と空気を理解することにより、生活において体験することを応用発展させて自ら考え、問題を解決する姿勢につながると考える。

Ⅱ．小学校図画工作科における「布」

1．5つの視点からみた図画工作科の学習内容

髙橋・村上[4]は、図画工作科における学習指導要領に「布」という記述は直接的には見られなかったが、材料・用具や活動、作品として布を含むような記述が全学年に渡って多々見受けられたと報告している。そこで、前述の1、2に述べた衣生活学習における「布」を踏まえて、図画工作科から家庭科へ連携することが有効であろうと考えられる内容をまずはじめに大きく5点に整理した。

①生活に役立つ物の製作と布の構造
②衣服の成り立ち
③布への関心と布の性質
④不要衣類の活用
⑤その他

①は、ものづくりという視点から製作に直接的に関わる生活技術と「布」としての知識(布の種類や構造)や理解に関連することである。②は、平面の布が袋物や衣服のように立体に変化するという衣服の成り立ちに関わる内容とした。③については、布に関心を持つことから、布の特徴や性質を感じることとした。これは、家庭科における衣服材料に使われている「布」の素材特性や風合いのことである。④は、家庭科学習指導要領の内容D「身近な消費生活と環境」⑵「ア身近な環境との関わり、物の使い方の工夫」であり、有効なものの使い方を念頭に置いた。⑤のその他としては、中学校・高等学校家庭科に関連する内容及び図画工作科の材料・作品そして活動として用いられている「布」や衣服とし、これら5つの視点から図画工作科教科書の内容を精査した。

2．図画工作科の教科書分析[12~20]

和歌山県で平成27(2015)年から使用されている2社1～6年生の図画工作科教科書(KR社及びNB社)すべてを対象とし、教科書会社ごとに表1及び表2を作成した。表の内容は、学年、ページ、単元名、めあてまたは内容、家庭科との関連、及び前項の①～⑤の視点である。

⑴生活に役立つ物の製作と布の構造(視点①)

図画工作科のものづくりに関する内容として、KR社教科書では、1・2年生で、「のりしろ」についての記載があった。家庭科では、小物の製作時に「縫い代」

が必要となる。教科書の例では、立体どうし(円筒と直方体)を合わせるための「のりしろ」であり、平面の布を袋物などの立体にすることとは一致しなかったが、(縫い)合わせる時に必要であるという考え方は共通している。袋物製作における型紙の説明時に、低学年での「のりしろ」の必要性から説明すると、縫い代の必要性理解につながると考える。また、NB社教科書では、平面の紙や段ボールを帽子、物入れなど立体に変化させるという内容が見られた。KR社では、布目に関連する内容として、紙目が図画工作科において取り上げられ、紙に方向(目)があることの説明があった。図画工作科で材料には方向(目)があると理解したことが、高学年の家庭科ではなぜ布に方向(目)があるのかを科学的に認識する授業へとつながる。はさみの手渡し方は、いずれの教科書にも低学年で記載されていた。しかし、はさみの使い方は、布の場合と紙の場合で異なるので、安全性だけが参考にできる部分である。

布の構造に関連しては、KR社では紙を互い違いに組む(1・2下)、機織り体験(3・4下)、テープを織る(5・6上)とすべての学年の教科書で取り上げられていた。NB社では、アミアミアミーゴ(5・6下)の単元で編んだり織ったりすることによって、かごやブックカバー、帽子など生活を楽しくするものが作れることが扱われ、次ページでは布テープを互い違いに組んだコースターや毛糸とたこ糸を用いて織ったコースターが写真に記載されていた。家庭科における生活に役立つ小物の製作とほぼ近い内容であった。残念なことに、紙バンドを交互に組み合わせる織物の構造の説明が「編み方の基本」と書かれ、織物と編物が混同されて用いられていたことや「織り機を使って」の説明では、たこ糸を「たて糸」に、毛糸を「横糸」とする表記が複数箇所に見られた。織物でのたて糸・よこ糸は、漢

表1　KR社図画工作科教科書における家庭科との関連内容の分析結果

学年	頁	単元名	めあてまたは内容	家庭科との関連内容	視点
1・2上	24	どうぶつむらのピクニック	空き箱で、作りたい動物を思いついて、作る工夫をする	のりしろと縫い代	①
	31	くしゃくしゃがみからうまれたよ	くしゃくしゃ紙で作り方を試したり、見つけたりして、作りたいものを思いつく	紙目(紙には破りやすい方向と破りにくい方向がある)と布目	①
	44	道具箱	紙を切る、貼る	安全なはさみの渡し方	①
1・2下	6、7	ゆめをかたちに「みんなおいでよ、ぬのであそぼう」詩の紹介	着られなくなってしまった洋服たちをミシンで縫って、なかにわたをつめて、最後は手縫いでとじる	不用衣類の活用	④
			「ぬのでかつどうするの、たのしいな」ぬのをねじったり、むすんだり、つつむ。リュック風のものを背負う。布カバンをかたにかけておでかけ	平面で立体を包む 布の風合いなどの性質	① ③
	18	ひらめきコーナー	紙や、紙でできたみぢかなものでやってみよう、つくってみよう！	カラフルごま作成時に、互い違いに紙を組んでいく点が織物の構造・組織に類似	①
3・4上	20、21	こんにちは、ふわふわさん	やわらかい材料で作り方をためしたり、見つけたりして、つくりたいものを思いつく	材料にやわらかいわたや毛糸を利用し、触り心地を振り返る	③
	37	くつ下や手ぶくろにまほうをかけると	くつ下や手袋などの組み合わせ方を工夫する	不用衣類の活用	④
3・4下	35	願いの種から	自分の願いや夢から考えたり、想像したりして、表したいものを思いつく	材料にわたや布利用	⑤
	40、41	みんなのギャラリー	伝統の技を学ぶ「江戸小紋、絹と機織り」	機織り体験と布の構造 中学校・高等学校家庭科との関連	① ⑤
5・6上	18	ひらめきコーナー	紙や、紙でできた身近なものでやってみよう、つくってみよう！	テープを織る模様が織物の構造に類似	①
	24	でこぼこ広場に絵の具が走る	でこぼこの画面から、想像したり、考えたりして、表したいことを思いつく	材料に布、ガーゼなどを利用	⑤
	28、29	自然の中で感じたことを・・・	身近な場所や環境、材料の特徴を考えたり、見つけたりする	布に関心を持つこと 古布の利用とリサイクル	③ ④
5・6下	14	布と枝のコンサート	布や枝の特徴を生かした飾りの作り方を工夫する	布の柔らかさを感じる 材料としての布	③ ⑤
	15	白い物語	白い材料や場所の特徴を生かしたり、考えたりする	白いレースやネットを扱い布に関心を持つ	③
	43－45	みんなのギャラリー	伝統の技を学ぶ「加賀友禅」	中学校・高等学校家庭科との関連	⑤
		造形コレクション	日本に伝わる形・色「紅型、藍染め」	中学校・高等学校家庭科との関連	⑤
	46	道具箱	集めておこう！材料は、宝物	材料として布やガーゼを利用	⑤

視点：①生活に役立つ物の製作と布の構造　②衣服の成り立ち　③布への関心と布の性質　④不要衣類の活用　⑤その他

字で表すと「経糸・緯糸」と表記する。そのため、家庭科教科書では両方ひらがな表記が用いられている。教科間での整合性は見られていないことが分かった。

⑵衣服の成り立ち（視点②）

平面の新聞紙をかぶったり、腰に巻いたりして、身体全体で楽しむことがNB社（1・2下）に取り上げられていた。また、ポリ袋を衣裳に見立ててパレードする内容（3・4上）が図画工作科の広がりとして取り上げられていた。紙やフィルムなどの平面的なものを貼り合わせたり、穴を開けたりすることによって立体の衣服になるという点では、家庭科へつながる内容であるが、実生活で着用する衣服は、紙やフィルムではなく「布」という材料であるとする家庭科とは一致しない。一方、KR社では、平面の材料を身体にまとい衣服のようにする活動は一切見られなかった。

⑶布への関心と布の性質（視点③）

家庭科のTK社教科書に、種々の擬音を用いた布の風合いを表現する単語が記載されていた（Ⅰ.1⑵②参照）。布のやわらかさや、ふわふわしたやさしさを図画工作科で感じ、表現し、作る喜びを体験することにより、「布」と他の材料との違いも実感する。家庭科で学習する「布」の性質を低学年ですでに体感しているわけである。「布」について図画工作科で感じたことを、高学年の家庭科では科学的に解明していくという連携として、図画工作科から家庭科へ「布」についての学びがつながり、発展していくと考える。KR社では、「ぬのでかつどうするの、たのしいな」の単元（1・2下）に直接「布」という言葉が記載され、布をねじったり、結んだりする活動が紹介されている。「こんにちは、ふわふわさん」という単元（3・4上）では、材料にやわらかいわたや毛糸を利用する内容が見られる。いろいろな種類の布を組み合わせてつなぐ・窓に貼る、固い枝に柔らかい布を組み合わせる（布を裂いて巻く、ピンと張る）活動（5・6上下）もみられ、布の風合いや性質を体験することができる。一方、NB社では、布の風合いを体験するような活動はみられなかった。5・6年生の単元「動きをとらえて形を見つけて」において、風をとらえるという活動で同様の内容が見られるが、布ではなく、ビニルシートが使用されており、単元名やめあてに「布」は用いられていなかった。

表2　NB社図画工作科教科書における家庭科との関連内容の分析結果

学年	頁	単元名	めあてまたは内容	家庭科との関連内容	視点
1・2上	20，21	おってたてたら	紙を折ってたてた形から思いついたものを作る	平面から立体物作成	①
	55	つかってみよう　材料と道具	はさみの使い方	安全なはさみの使い方	①
1・2下	16，17	しんぶんしとなかよし	新聞紙を使って体全体でたのしむ	かぶる、腰に巻くなど衣服としての役割	②
	22，23	わっかでへんしん	輪に飾りをつけて、自分を変身させるものを作る	平面から立体（コック帽）への変化	①
3・4上	30	図画工作の広がり	作品を見てもらおう	ポリ袋を衣装に見立てる	②
	34	ひもひもワールド	ひものつなぎ方や結び方を工夫して、場所の様子を変える	材料にアクリル毛糸利用	⑤
3・4下	18	おもしろアイデアボックス	段ボールを使って、便利で楽しい箱を工夫して作る	平面から立体物（物入れ）作成	①
	20	つつんだアート	身近な場所や物を包んで様子を変える	ビニルシート、新聞紙で物を覆う	①
	42，43	森の芸術家	木の材料を組み合わせて、立体に表す	材料に布利用	⑤
	50	造形の森見て・感じて・考える	手と道具	平面（風呂敷）で立体を包む	①
5・6上		関連する内容なし			
5・6下	10	動きをとらえて形を見つけて	材料や場所の特徴を生かして、風や水の姿が美しく見えるようにする。	風をとらえた→ビニルシート（布の性質との関連）	③
	20	アミアミアミーゴ	編んだり織ったりして、生活を楽しくするものを作る（紙バンド、ビニルテープ、色画用紙、布テープ、毛糸による作品）	布の種類と構造	①
	21				
	56	織り機を使って	たこ糸と毛糸による作り方	織り機	①
	32	いっしゅんの形から	液体粘土と布が作り出す形から想像を広げて、立体に表す	材料に布利用	⑤
	36	感じて→考えて	手と心を働かせて、いろいろな材料を使って表す	材料に布利用	⑤
	38	１枚の板から	１枚の板から無駄のない使い方を考えて、生活を豊かにするものを作る	無駄のない木取りが布の裁断に関連	①
	40	味わってみよう和の形	古くから生活の中で親しまれてきた日本の美術の良さや美しさを味わう「文様（縮緬地友禅訪問着菊）」	中学校・高等学校家庭科と関連	⑤
	48，49	図画工作の広がり（中学校へ向かって）	弁当包み（布・インク）	生活に役立つ小物（弁当包み）製作	①

視点：①生活に役立つ物の製作と布の構造　②衣服の成り立ち　③布への関心と布の性質　④不要衣類の活用　⑤その他

表３[21]に、平成24年度発行の図画工作科教科書３社[22)~26)]の単元又はめあてに「布」という単語が記載されていたものをまとめた。

３社とも、２単元で「布」が扱われていた。特に、KR社教科書１・２下に「ほわほわむくむく」という単元があり、布を広げて柔らかい布を直接感じる活動が取り上げられていた。ベッドシーツやバスタオルなどの大きな布を扱い、布の風合いや性質を十分感じる活動となっていた。しかし、平成27年度発行の図画工作科教科書では、そのような活動がなくなっていたことが確認出来た。平成24年度及び27年度発行の図画工作科教科書は、現行学習指導要領のもとに作成されていることから、学習指導要領に記載されていない「布」が用いられなくなったことに特に問題はない。しかし、教科横断的及び学年縦断的に連携が可能である「布」が材料に選択されなくなったことは家庭科の立場からは残念である。さらに環境教育という点でビニルシートやフィルムという石油が原料の材料が用いられるより、環境負荷の少ない「布」を材料として取り上げることを望む。

⑷不要衣類の活用及び材料としての利用（視点④）

KR社教科書では、「くつ下や手ぶくろにまほうをかけると」の単元（３・４上）で、魔法をかける材料として、使わなくなったもの（軍手、靴下、タイツ、タオル、上履き、帽子、古着など）が挿絵で説明されていた。感性を形にする図画工作科と生活に役立つ物を製作する家庭科とは方向が異なるが、材料として古着（不要衣類）が利用できるということを知ることは共通である。その他の教科書写真から判断できる古布（５・６上）には、古着の袖を結んだりする活動が確認出来た。NB社教科書では、不要衣類の活用に関連する内容は見あたらなかった。しかし、多くの単元で「布」が材料として利用されていることは教科書から確認出来た。

３．図画工作科における「布」の活用

図画工作科教科書において、「布」は創作活動の題材（素材）の一つとしていろいろな学年・単元で活用されていることを先行研究[4),21)]とともに本研究においても確認することができた。前述のように、高学年家庭科との教科連携を考えると、「布」を取り上げる目的は、風合いや肌触りなど、布が柔らかいものであるということを体感する点で有効であると考える。小学校図画工作科学習指導要領解説[27)]においても、「感性を働かせながら」という視点が目標に加わり、造形的な創造活動の基礎的な能力を育成することが一層重視されるようになった。幼稚園の「表現」領域も含め、「感性」という心に感じ取る事象を、低学年の時に「布」を教材として用いることで、その風合いや感触を肌で感じることがそれに相当する。両教科が連携する点として「布」が良い教材であると思われる。

しかし、前項で述べたように平成24年度から27年度への教科書変更に伴い、「布」を題材とする内容が変化した。図画工作科で用いられる紙は非常に身近で安価であるが、「布」は紙ほど安価ではない。また身近な「布」は、ほとんどが製品として存在するものであるため、指導者が生地の状態の「布」を購入したことがないなど、教師側の「布」についての知識・かかわりが乏しいことも関与すると考える。よく知らない材料を教材として準備することの困難さが、教科書から「布」が減少したことの理由とも考えられる。平成24年度発行のKR社図画工作科では、題材としてベッドシーツやバスタオルと思えるものが用いられていた。身近な布製品を通して、風合いや肌触りを感じる良い例だと考える。一方で、作り出す喜びを味わうための教材では、切ったり、裂いたりする活動もある。紙をはさみで切ることと異なり、布製品にはさみを入れることには躊躇することも考えられるので、「布」を材料として扱いにくいかもしれない。家庭科においても、指導者である教師の「布」に関する知識や体験が少ないという現状があるうえに授業時間数が少ないため、教材として市販のものづくりキットが利用されることが多い。こ

表３　平成24年発行図画工作科教科書における「布」

	学年	頁	単元名	めあて	布の扱い*
KR社	１・２下	13	ほわほわむくむく	布の柔らかさを生かして楽しく活動する	ベッドシーツを広げ、「ふわっといい気分」バスタオルをぎゅっと抱いたら、いい気持ち バンダナやハンカチで包む、ねじる、丸める
	３・４上	26	くつ下や手ぶくろにまほうをかけると	布や手袋などの組み合わせを考えて作る	手袋や靴下、古着、タオルに毛糸やリボン、ボタンなどの飾りをつける
NB社	３・４下	8	ぬのでかざろう	布を使って、いろいろな場所の感じを変える	布を結んだり、巻いたりして廊下や木を飾る
	５・６上	21	ぬのから生まれた形	やわらかな布の扱い方を工夫して、作りたい形を立体に表す	柔らかな布で作られた手袋や靴下、Ｔシャツに中身を詰めて、しばって形を作る
TK社	１・２	35－36	ぬのであそぼう	布の感じを楽しみながら、形を変えたりつないだりして思いついたことを試そう	布を広げたり、服のように身に付けたり、包んだり、つないだりして遊ぶ
		45－46	いろいろそめてみよう	紙や布を染めて、形や色を楽しみながら、飾ってみよう	紙や布を染めて、身の回りを飾る

＊布の製品名は、写真から筆者らが判断した。

のような教材では、「布」の知識が児童に学習内容として理解されていない可能性も考えられる。以上のような点が、小学校教員養成における課題である。小学校教科の授業が各教科個別に実施されるだけでなく、担任が全教科を指導できるよう、教科間の連携を踏まえ、各教科における学習内容の共通性やつながりについても小学校教員養成の授業科目として取り上げることが必要である。

Ⅲ．まとめ

本論文では、図画工作科から高学年家庭科へつながる学びを提案することを目的とした。図画工作科教科書を精査する内容として「布」に着目し、まず小学校家庭科の衣生活学習において、「布」を学習する意味と意義を著者らの考えに基づき明確にした。そして、家庭科の内容学習への発展に関連する図画工作科教科書の内容を整理した。感性を働かせることをめあてとした低学年における図画工作科において、布を風になびかせたり、光に透かしてみたりする活動は、布を感じる原体験となる。その後、高学年家庭科において布を科学的に理解させることができるという点で、両教科において、「布」を教材として取り上げることの有用性が本結果から示唆された。

文献

1）文部科学省(2008)小学校学習指導要領解説家庭編、p.37-48、東洋館出版社
2）朴木佳緒留(1988)アメリカ側資料より見た家庭科の成立過程(4)－小学校家庭科と図画工作の統合問題－、日本家庭科教育学会誌31(2)、15-19
3）髙橋智子、村上陽子(2010)学校教員養成課程における教科連携による授業実践の試み[no.1]　－教科充実に対する大学生の意識調査－、静岡大学教育学部研究報告(教科教育学篇)41、211-218
4）村上陽子、髙橋智子(2013)学校教員養成課程における教科連携による授業実践の試み[no.4]　－連携モデルの提示を中心として－、静岡大学教育学部研究報告(教科教育学篇)44、119-146
5）髙橋智子、村上陽子(2010)学校教員養成課程における教科連携による授業実践の試み[no.1]　－教科充実に対する大学生の意識調査－、静岡大学教育学部研究報告(教科教育学篇)41、211-218
6）内野紀子他(2015)小学校わたしたちの家庭科５・６、開隆堂
7）渡邊彩子ほか13名(2015)新編新しい家庭５・６、東京書籍
8）文部科学省(2008)中学校学習指導要領解説　技術・家庭編、PP.61、教育図書
9）今村律子、赤松純子他(2012)布の構造と空気から考える小学校家庭科衣生活内容の構築、日本家庭科教育学会第55回大会研究発表要旨集、28-29
10）與倉弘子他(2012)小学校家庭科衣生活内容「布を知る」の検討、日本家庭科教育学会第55回大会研究発表要旨集、30-31
11）潮田ひとみ他(2012)小学校衣家庭科生活内容「洗う」の検討、日本家庭科教育学会第55回大会研究発表要旨集、32-33
12）日本造形教育研究会(2015)ずがこうさく１・２上　わくわくするね、開隆堂
13）日本造形教育研究会(2015)ずがこうさく１・２下　みんなおいでよ、開隆堂
14）日本造形教育研究会(2015)図画工作３・４上　できたらいいな、開隆堂
15）日本造形教育研究会(2015)図画工作３・４下　思いをこめて、開隆堂
16）日本造形教育研究会(2015)図画工作５・６上　心をつないで、開隆堂
17）日本造形教育研究会(2015)図画工作５・６下　ゆめを広げて、開隆堂
18）日本児童美術研究会(2015)たのしいなおもしろいな　ずがこうさく　１・２上、１・２下、日本文教出版
19）日本児童美術研究会(2015)見つけたよためしたよ　図画工作　３・４上、３・４下、日本文教出版
20）日本児童美術研究会(2015)見つめて広げて　図画工作　５・６上、５・６下、日本文教出版
21）野村彩貴(2013)小学校における袋物の製作と図形の指導　－家庭、算数、図画工作における教科間のつながり－、和歌山大学教育学部平成24年度卒業論文(今村律子指導：未発表)
22）日本造形教育研究会(2012)ずがこうさく１・２下　みんなおいでよ、開隆堂
23）日本造形教育研究会(2012)図画工作３・４上　できたらいいな、開隆堂
24）日本児童美術研究会(2012)図画工作３・４下　ちがいをみとめて、日本文教出版
25）日本児童美術研究会(2012)図画工作５・６上　心を通わせて、日本文教出版
26）栗田真司他(2012)あたらしいずこう１・２、東京書籍
27）文部科学省(2008)小学校学習指導要領解説　図画工作編 http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2009/06/16/1234931_008.pdf